

広島大学法学部

School of Law Hiroshima University



contents

2 「社会を支え、社会をよりよいものにするための学びの園」

3 法学部で学ぶ4年間

- 3 将来の進路を見据えたカリキュラム
- 3 1年生
- 4 2年生
- 5 3・4年生

7 楽しいよっ!! キャンパス・ライフ

- 7 先輩たちの毎日
- 7 法学部カレンダー
- 7 図書館と共用施設

9 現在と未来を強力にサポート

- 9 法学部の勉学支援
- 9 法学部の就職支援

10 各界で活躍する先輩たち

- 10 卒業生の進路
- 10 卒業生の就職状況
- 10 卒業生紹介

11 大学院で学ぼう

- 11 人間社会科学研究科 法学・政治学プログラム
- 11 人間社会科学研究科 実務法学プログラム(法科大学院)
- 12 院生紹介

13 法学部の歴史と今

- 13 法学部の沿革
- 13 教員一覧

14 法学部への入口は多彩

- 14 入学試験フローチャート
- 14 2つのコース
- 14 光り輝き入試/総合型選抜・II型
- 14 光り輝き入試/総合型選抜・国際バカロレア型
- 14 光り輝き入試/総合型選抜・社会人型
- 14 光り輝き入試/総合型選抜・フェニックス型
- 14 編入学



「社会を支え、社会をよりよいものにするための学びの園」

法学部長 永山博之



法学部は、社会科学を学ぶ人のための総合的な学部です。広島大学法学部は、法学、政治学、社会学、国際関係論などの多様な分野で教育研究を行う学部であり、経済学系以外の多くの学問をここで学ぶことができます。

わたしたちが、学生に教えようとしているのは、「社会において起こっていることを、正しい手続きと、全体的な視野によって理解する」方法です。例えば、新型コロナウイルス対策が不十分であるという意見を持っていたとすれば、どのような観点から（飲食店の営業制限？一般市民の行動制限？中央官僚機構や地方自治体の仕組み？人々の行動様式や病気に対する意識の変化？）問題を見るのか、社会のどこをどのように変えれば有効な対策になるのか、その対策はどの程度のコスト（費用、時間、社会的説得）で実現可能なのか、ということに配慮しながら、法的、政

治的に妥当で、有効かつ実現可能な解決策を考えるということです。

このような「できる範囲で社会をよくしていく」ことは、頭がいい人がちょっと考えてできることではありません。社会の仕組みを知らなければならず、人間の行動様式、その理由、社会を変えようとする時の副作用をきちんと理解していなければ、ただの「意識高い系の思いつき」で終わるだけでなく、社会そのものに破滅的な影響を及ぼすようなことにもなりかねないのです。20世紀の社会的悲劇の多くが、「社会を完全に置き替えることで、よい社会をつくる」という発想から出ていたことを思い返す必要があります。

妥当、有効、実現可能な解決策を考える能力は、社会のあらゆる分野で必要です。法曹、公務員、会社員、教育機関、医療機関、NPOなどの非営利団体職員、あるいはコンビニでアルバイトをしている人であっても、社会に生きている限り、自分と社会の関係を考え、社会をよくすることを考えることは可能であり、必要なことなのです。

わたしたち教員も、いつもこの課題を考えている一人です。みなさんとともに学んでいけることを楽しみにしています。

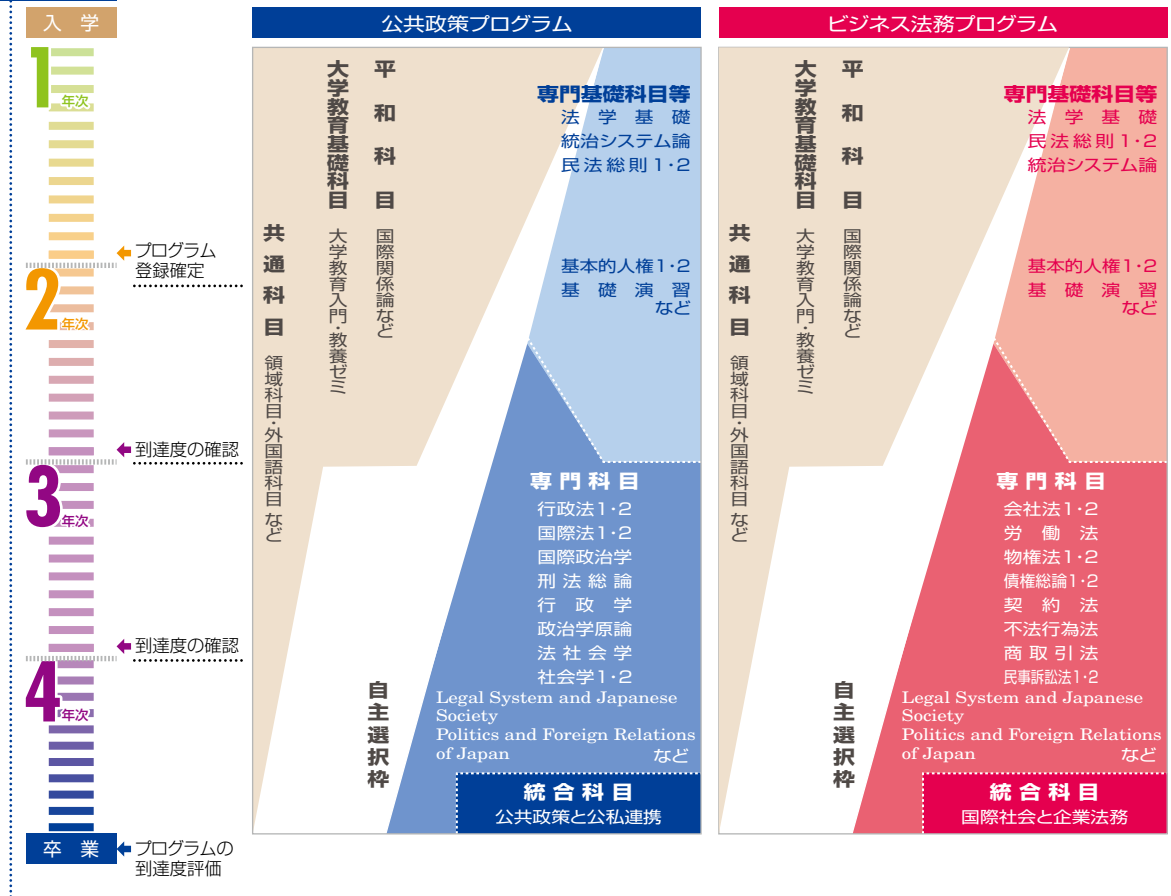


法学部で学ぶ4年間

将来の進路を見据えたカリキュラム

広島大学法学部(昼間コース)では、1年生で「教養ゼミ」や「法学基礎」などの基礎的な導入科目を履修したあと、2年生からは、卒業後の希望進路と目的意識に応じたプログラムが用意されています。「公共政策プログラム」は、公務員やNGO職員などをめざす学生を対象とし、制度の運用・評価・立案の能力を養成することを教育目標としています。「ビジネス法務プログラム」は、民間企業で活躍することをめざす学生を対象とし、企業活動の法的理解と実務能力にすぐれた人材を育成することが教育目標です。また、本学法学部の法曹コースとなる「法曹養成プログラム」は、法科大学院と連携して、法科大学院既修者コースとの一貫教育を可能にする法曹養成のための教育プログラムであり、学段階で法科大学院1年次に相当する基礎的な法律知識や能力などを早期に修得できます。それぞれの教育目標に適した専門科目群を履修し、到達度を確認しながら、力をつけていくことができます。

カリキュラム



1年生のときは、こんなふうに勉強します

教養ゼミ

担当する教員の専門分野に応じて、社会科学の世界にはじめて触れ、ディベートやプレゼンテーションを体験するなど、積極的に自己学習する方法を学びます。

写真は、ある日の教養ゼミの風景です。

1年生

法学基礎

各回の担当教員が専門分野に沿った導入的内容を解説することによって、法学の基礎になる概念と知識を教授し、法的思考力を養い、また、政治学の考え方、政治のしくみについて初歩的な知識を教授して、その役割や意義を理解させるための授業です。

この授業を通じて、各々の法分野に関心・問題意識を持ち、自主的・主体的に修学する態度を身に付けてもらうことをねらいとしています。

この日の議題は「裁判員制度」。

肯定側と否定側に分かれて、討論します。みんな結構本気になります。



「一般人は、マスコミの報道に影響を受けたり、感情に流されたりして、適正な判断を下せない恐れがあると思います。」



「一般人が裁判員として裁判に加わることによって、庶民感覚や社会常識を反映した判断が下せるようになると思います。」

2年生では、プログラムを選択します

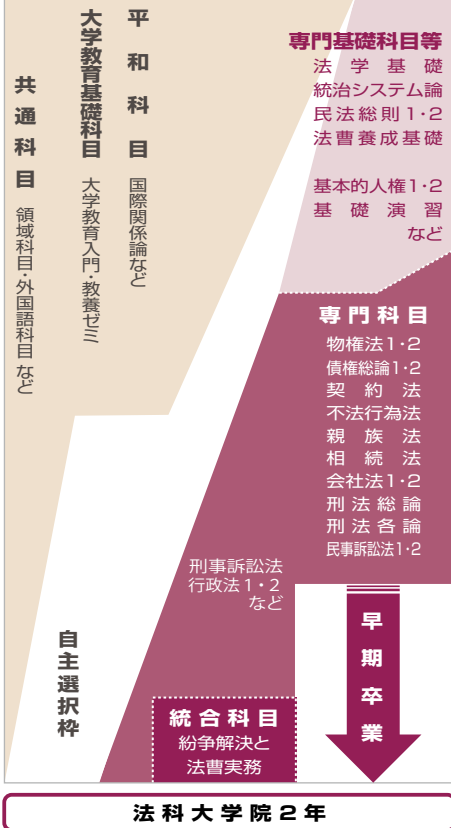
2年生になると、3つのプログラムのいずれかを選択し、「基礎演習」やプログラムの「基本科目」などを受講します。

2年生

基礎演習

2年生の基礎演習では、専門教育を受ける準備として、講義で得た基礎的知識を、使いこなすことができるよう訓練します。例えば法律系の基礎演習では、判例・事例を素材として、法律が紛争の解決にどのように用いられているか、受講生の報告に基づき、理解を深めてゆきます。このほか、政治・社会学系の基礎演習も実施されます。

法曹養成プログラム



各々のプログラムに沿った受講科目の組み立ては、次のような感じになります。たとえば、公共政策プログラムを選択した、2人の2年生の場合を見てみましょう。



A君 「最近、駅周辺の商店街の活性化を目指す市民サークルに顔を出しています。空き店舗をなくすために建物や土地の所有者と交渉したり、看板ひとつ設置したりするにしても、どうやって誰に許可をとるのか等、本当に色々な法律の知識が必要なんだと分かってきたし、地方自治体のまちづくりの手法や実際について、もっと知りたくなってきました。だから2年生からあとは、法律の講義をみっちり勉強しながら、行政学・政策システム論・社会学などの科目をとります。将来は、都市計画や地域政策に関わる仕事に就きたいなあと考えています。」



Bさん 「卒業後は生まれ故郷に戻って、県庁か市役所で働きたいと思っています。公務員になるには公務員試験を受けなければならない、ということで、まずは民法科目の講義をプログラムの基本科目として受講して、それから3年生までの間に憲法・刑法・行政法などの公法系の科目、専門試験に欠かさない政治学・行政学・社会政策など、バランスよく公務員試験科目を押さえていきたいと思っています。」



次に、2年生になってビジネス法務プログラムを選択した、別の2人の場合を見てみましょう。



Cさん 「いつか独立して事業をやりたいと思っています。そのためには、会社を作って運営することになるから、いまのうちに会社法を勉強しておこうと思っています。事業でいろんな取引をするだろうから、民法や商取引法も勉強しておかないといけませんし、人を雇うことになるから労働法も勉強しておきたいです。事業にかかわる色々なことを勉強できるのがビジネス法務プログラムの強みですね。」



D君 「僕は、商社とかメーカーとか、民間企業に就職して、バリバリ働きたいと思っています。法務関係の部署で、グローバルに活躍できたら、かっこいいですよ。そのへんのことも考慮に入れて、ビジネス法務プログラムでは、会社法とか商取引法とかに力を入れて勉強したいと思っています。国際的な視野を持ちたいので、国際取引法・国際政治経済学・国際私法などの科目も勉強したいし、あと英語の勉強も……」



養成プログラムを選択した2人の場合を見てみましょう。



E君 「就職ガイダンスで“司法書士”という仕事についての紹介があったので、興味を持ったんです。難しくそうですが、資格がものを言う時代だし、挑戦してみようと考えています。司法書士の試験に必要なのは、主に民法・民事訴訟法・不動産登記法などの民事法系の科目だというアドバイスを受けたので、それらの科目に重点を置いて、法曹養成プログラムを選択することにしました。それに、司法書士の資格を持って民間企業に就職したら、法律の知識を活かした部署で働く道もあるということなので、頑張ります。」



Fさん 「将来、法曹になり社会に貢献したいと思っている私にとって、法学部を3年間で卒業した後、2年制の法科大学院に進学できる法曹養成プログラムは、将来の夢を早期に実現できる上、経済的にも大変魅力的なものと感じています。勉強では、特に司法試験に関わる主要な科目でよい成績を取れるように日々頑張っています。」

3年生からは、こんなことを勉強します

3・4年生になると、専門科目を中心に受講し、専門演習(ゼミ)にも所属して、実践力を鍛え、将来の進路や目的に応じた、より具体的で専門的な内容を勉強します。ここで幾つかの講義科目やゼミを紹介しましょう。

ゼミ紹介



「会社と法」岡田昌浩



岡田ゼミでは、会社法——会社の運営、形成、再編に関する法的ルール——について2年間で学習します。現代社会においては、多くの人々が取引をし、その株式に投資し、また雇用されるという形で会社との関係を持ちます。こうした現代社会の不可欠の要素としての会社を、法的に分析するのが岡田ゼミの目的です。

2年間のゼミの1年は、会社法のいろいろな領域——たとえば株主総会や取締役といった機関であるとか、株式会社であるとか、合併などの組織再編であるとか——について、テーマを設定して報告・議論します。もう1年は、会社法の判例——実際に裁判所で出された判決など、先例になるもの——を題材にして、報告・議論を行います。

ゼミの議論を通じて、講義で学んだ会社法の知識を定着させ、活用できるものにすることをめざします。そのために、学生は自主的に調査をし、議論に積極的に参加することになります。

阿部悠介 山口県立防府高等学校卒



岡田ゼミは先生を含めて10名のゼミです。ゼミの規模としては小さいのですが、だからこそ誰もがゼミに対して、勉強面でも課外活動面でも、主体的に取り組んでいます。私は特に岡田ゼミでの勉強面について紹介したいと思います。当ゼミでは会社法の分野で先生が用意して下さるテーマを、発表者と質問者に分かれて学んでいきます。発表者は毎回2名、それぞれが担当するテーマを説明できるように準備してゼミに臨みます。ところが、そのテーマは聞きなれない分野であることがほとんどです。その為、発表者は知識的にほぼ白紙の段階から、ゼミの発表日までに皆に説明出来るほどに勉強する必要があります。その際には教科書だけでなく、大学の図書館、また学部内の書庫にある豊富な資料が役に立ち、また、膨大な資料の中から適切なものを選び出す練習にもなります。

この様に発表者はゼミでテーマの説明という役割がありますが、一方で、質問者も当ゼミでは重要な役割を担っています。質問者には発表者から全く馴染みのないテーマについて説明された後に、発表者に対して質問する時間があるのですが、短時間のうちに質問の切り口を考える事、これが案外難しいです。簡単すぎる質問は理解が深まらないし、難しすぎる質問は発表者も答えられないからです。ですが、そういった質問があった際は先生が簡単な質問からより深い質問を、逆に、発表者が質問に対して回答しきれない場合には適切な説明を加えて助けてくださいます。その為、質問者にはもちろん、発表者からしても改めて理解が深まる、そんなゼミだと思います。

私は当ゼミにおいて、学んだ会社法の知識ももちろんですが、それ以上に質問を考える能力が最も培われたものだと思います。先日就職活動を終えましたが、振り返ると、限られた時間で適切な質問を考える事は何度も求められました。ゼミを通して、そうした経験を事前に積む事が出来た事は、今にして思えばとても幸運なことだったと思います。会社法は企業の中の事を学ぶ事が出来る分野です。学生から社会人に移行するこの大学時代に学ぶ分野としてはまさに旬だと思います。



「社会学からみた法と社会」浅利宙



法社会学は、法律や社会規範が現実生活のなかでどのように作用しているのか、たとえば、法に関する意識や利用方法などについて、経験的データに基づきながら研究する学問領域であると表現することができます。私自身の現在の主要な関心は、家族生活や地域生活でみられる諸問題や紛争現象の生じる現代的背景、ならびに対処・解決過程を対象に、相互作用や社会関係などに着目する社会学の方法論を用いて分析・解明していくことにありますが、ゼミでは特にテーマを限定することなく、高齢者介護、障害者とスポーツ、教育格差、地域における人口減少対策、防災活動、地域活性化のための食と観光、訪日外国人旅行者の誘致に関する事業、SDGsをめぐる諸動向など、学生が選択したテーマに関する社会的アプローチを用

いた研究論文を検討しています。報告と議論を通して、自身が選択した研究内容はもちろん、他の学生が選択したテーマについても理解を深め、また、法律や社会規範と現実生活との関連について関心を深めてもらえればと考えています。

竹之内瑠菜 宮崎県立宮崎大宮高等学校卒



浅利ゼミには4年生12名、3年生6名の合計18名が所属しています。法社会学の研究対象は様々であり、現在のゼミ生は観光、介護、防災など個人の興味・関心のある分野について研究を進めています。

ゼミの活動内容としては、3年次の前期は、指定された文献をまとめて報告を行います。その後、自分の研究したい分野を決定し、3年次の後期からは、その分野に関する研究報告と議論を行います。自分の研究報告において考えを深められるのはもちろんのこと、他のゼミ生が行う幅広い分野の研究報告を聞くことにより、新たな視点を発見したり様々な分野について知ることができたりするので、毎回学ぶことが多く興味深いです。

ゼミでの学びは、就活で自分の関心のある分野についてアピールする際に有効であるだけでなく、今後の人生にも役立つことがあると思います。浅利ゼミで自分の研究したい分野を追究してみませんか？



「政治学」 荒木 隆人



政治学は、正義を追求する人間本性に基づく、総合的な人間学であると言われています。ですので、私たちに関わるあらゆる社会問題が政治学の対象になりえます。私たちのゼミでは、前期では広く政治に関係する課題を扱った本や論文（例えば、ナショナリズムと民族の問題、日本におけるジェンダー不平等、民主主義の意義と限界、移民・難民問題など）を読みます。後期には、受講者の様々な関心に基づいて、受講者自身による研究発表を行います。研究発表を通じて、受講者は自ら調べ、プレゼンし、話し合いをまとめるといった力が養成されると思います。研究発表の内容としては、国家と正義、ジェンダーと政治、公共事業のあり方、沖縄米軍基地問題など多岐にわたります。前期、後期ともに受講者が積極的に発言し、活発な討論が行われています。

長谷川 奈璃 愛知県立五条高等学校卒



荒木ゼミは昨年度に新たに開講されたゼミです。特徴としては、公務員志望の3年生が多く、落ち着いた雰囲気でのゼミです。前期では、参加者全員で同じ本や論文を読んできていきます。まず、ゼミ生がその本や論文の担当箇所の内容を報告した後、少人数のグループに分かれてグループ討論を行います。その討論を通じてまとめられた論点をグループの代表者が発表し、他のグループのゼミ生と議論が行われます。そして、議論の最後に先生からのコメントを頂きます。後期は、前期の本や論文の講読から得た知見を活かして、各自が関心のあるテーマを選び、その内容について研究発表を行い、ゼミ生全員で討論を行います。

外国事情、哲学、政治や社会のしくみ、格差問題や人権問題に興味がある方には是非おすすめしたいゼミです。荒木先生は情熱的に語られます。時折、鋭い指摘を下さり、基本的な事項でも親切に教えてください。毎回のゼミで、自分の知見が広がっていく感覚がとても新鮮で楽しいです。皆さんもこのゼミで政治学の見方から世界を見てみませんか。

専門科目紹介

法学部の専門教育科目を紹介します。

社会安全政策論 広島県警察

社会安全政策論は、社会全体の安全と安定を確保するための政策や理論を研究する学問分野です。その内容には、犯罪や災害、テロリズムなどのリスクや脅威に対処するための政策開発、犯罪防止、緊急事態管理、治安維持、災害対策被害の最小化、被害者の支援など、様々な要素が含まれます。方法論には、社会学、犯罪学、公共政策、防災学、行政学、法学など、多くの学問領域からの知識や手法が組み合わされ、政策立案や実施において、社会的・倫理的な問題にも配慮しながら、効果的で公正な対策を追求しています。講義では、地域警察活動、少年非行防止総合対策、犯罪被害者への支援、国際テロリズム、交通事故抑止総合対策、捜査、サイバー犯罪、繁華街・歓楽街総合対策、暴力団排除活動、大規模災害時における警察の役割、特殊詐欺抑止対策等、個別のテーマについて、毎回、最前線で職務に当たる広島県警察の担当者を講師として、貴重な経験値が共有されます。

行政法

行政と言えば、地方自治、環境、租税、社会保障、都市政策等のように耳慣れたものであり、また広範です。そして、行政の活動は公共サービスを提供することにより、国民に利益を与えるものではありますが、国民の権利を制限し、義務を課すこともあるため、一定のルールのもとに置かれる必要があります。その中心は法律による行政の原理と呼ばれ、行政活動に対する枠組みとなります。行政法の授業では、そうした原理を基に、いわゆる行政法総論と呼ばれる行政活動を法的に分析する理論と制度を勉強します。それは、いわば、広範な行政活動に一般的に適用される共通のルールのようなものです。特に、行政活動の国民に対する法的影響と、仮に違法な行政活動がなされ、国民の権利侵害が生じた場合の是正・救済方法が学習の中心です。授業では事例を交えて講義をするので、行政活動に際して生じる法的問題を具体的に知ることができるでしょう。



楽しいよっ!! キャンパス・ライフ

学生は大学で何をしたいの？ 授業に出席して勉強するのはあたりまえ。でも、それだけじゃないんです。広島大学では、入ったばかりの新入生でも退屈する暇もないくらい、学生生活を楽しく、忙しくするいろんなプログラムを用意しています。まず新入生がいきなり経験するのが、新入生オリエンテーション行事。2年生が1年生といっしょに活動しながら、大学生活に溶け込み、友人をつくるための企画です。

様々な留学プログラムや資格取得を目指す特定プログラムなど、学生の興味に応じて色々な体験ができます。授業の合間には、高裁長官や外国の学者による講演会が開かれ、学生はそこから法、政治、社会のエッセンスを吸収します。



海外留学で得た新しい価値観

迫 佳沙音 広島県・広島県立尾道北高等学校卒

私は自分の興味に応じて様々な経験ができる、多様性のある広島大学の環境のおかげで充実した大学生活を送ることができました。その一例として、学部の垣根を超えたカリキュラムである、特定プログラムを紹介します。私は元々英語や外国に興味があり、留学を在学中の目標にしていました。そのため、英語や国際交流科目を含み、留学の援助も充実しているGlobal Peace Leadership Programに参加しました。その一環でINU特別集中講義という、世界9か国の大学生とワークショップやプレゼンテーションを行う講義を受けました。講義自体が刺激的な経験だったことに加え、まとめとして書いた英作文が最優秀作品に選ばれ、イギリスのキングストン大学に留学することができました。また、交換留学プログラムを利用し、アメリカのフロリダ州立大学に1年間留学しました。これらの経験を通じて得た様々な分野での学びを繋げ、新しい価値観や考えを得たことで、これまでとは違う視点から社会について考えることができました。それによって、社会人としての今後の理想像が明確になったと感じます。法学部の授業展開も法律、政治、社会学など幅広いですが、大学全体でも学部、組織、プログラム、イベントなど多種多様です。そのような環境を活かして自分の好奇心を大切に、様々なことを経験してください。



入学式

第1ターム授業終了
第2ターム授業開始
ゆかたまつり



高裁長官講演会



春季休業(4月1日~7日)
入学式・父母等懇談会
新入生オリエンテーション行事
第1ターム・前期セメスター授業開始
履習手続
クラブ・サークル勧誘



新入生オリエンテーション行事

広島高等裁判所
長官講演会

第2ターム・前期セメスター授業終了
夏季休業
オープンキャンパス
集中講義(夏季休業期間中)
大学院入学試験
(博士課程前期)
(博士課程後期)

ACTIVITIES



SendaLab

大学で学ぶとは、簡単に言えば、情報を集めてそれを加工しながら、新しい情報を創ること。そのために重要なのが、図書館と情報基盤です。広島大学の図書館は、全学で5館から成り、約342万冊の蔵書を持つ、日本有数の大学図書館です。各図書館にある本は、東千田図書館に取り寄せることができます。電子ジャーナルやデータベースなどを、学内や自宅から利用することができます。また、BIBLA SendaやSenda Labなどの学習に使えるスペースもあります。



BIBLA Senda



東千田図書館



広島大学弁当開発



ホームカミングデー



広島大学には、仲間と共にやりたいことに熱中できる環境があります。

片山 開貴 岡山県・私立岡山白陵高等学校卒

私は、学生と卒業生・地域をつなぐ架け橋になることをミッションに活動している、広島大学校友会学生チームに所属しています。日本有数の集客数を誇る「ひろしまフラワーフェスティバル」(5月)・1年で最もキャンパスに人が集まる「ホームカミングデー」(11月)に学生の立場から企画・参加することが活動の柱です。

コロナ禍においては、「広大おはようプロジェクト」による、学生支援活動に力を入れました。緊急事態宣言などの影響で、収入が激減し、食費を切り詰めざるを得ない学生が増えていたため、学生が少しでも安心して学生生活を送れるようにしたいと考え、大学の食堂で朝ご飯を学生負担50円で提供する企画を行いました。クラウドファンディングを通じ、総額435万5千円のご支援をいただき、計14,700食を提供しています。

広島大学は2024年に創立75周年、最も古いルーツの白鳥学校創立から150周年を迎えます。現在は、創立75+75周年記念事業の企画・運営に直接関わる唯一の在学生団体のメンバーとして、「広島大学弁当」の開発や、会報誌「校友会だより」における周年特集の取材などに携わっています。卒業生や地域の皆様とのつながりが、ますます強固になっていることに喜びとやりがいを感じています。

第3ターム授業終了
大学祭(東広島キャンパス)
創立記念日(11月5日)
入学試験
(光り輝き入試)
(編入学試験)



大学祭

第4ターム・後期セメスター
授業終了
学年末休業
(2月16日~3月31日)
入学試験(前期日程)
大学院入学試験
(博士課程前期二次)

大学院入学試験
(博士課程後期)
入学試験(後期日程)
学位記授与式
成績優秀者表彰式
懸賞論文表彰式

10

11

12

1

2

3

第3ターム・後期セメスター授業開始
履習手続
就職内定者報告会
法学部就職ガイダンス

第4ターム授業開始
冬期休業
(12月26日~1月5日)

大学入学共通テスト



学位授与式



体育室にてサークル活動



自分に合ったキャンパスライフを送ることができます。

奥 梨緒奈 広島県・広島市立基町高等学校卒

法律を学び社会の仕組みについて理解を深めたいと思い法学部を志望しました。夜間主コースを選んだ理由の一つは柔軟性です。夜間の授業は18時から始まるため、ライフスタイルに合わせて学ぶことが可能です。私は昨年度、昼の時間を使い、資格取得に向けての勉強をしたり広島市の国際ボランティアに参加したり起業したりと、多くのことに挑戦することができました。また、人生経験豊かな社会人学生と一緒に学ぶことも夜間主コースならではの魅力です。2023年度に法学部昼間コースが東千田キャンパスに移転したことで、昼の法学部の講義を受けやすくなり、より自分に合ったキャンパスライフを送ることができるようになりました。

また、先生方や支援室の方々のサポートを受け、中国の重慶市にある西南政法大学への短期留学プログラムに参加させていただきました。留学を通して多くの刺激を受け、語学力や国際的な法の知識といった広い視野を持つことの必要性を感じ、勉強に対する新たな意欲が芽生えました。大学には国際的なプログラムが充実しており、自らの興味や関心に沿って学びを深めることができます。

法学部昼間コースの移転に合わせて、念願のダンスサークルと音楽サークルを立ち上げました。学業以外で、共通の趣味を通して多くの人とつながることができ楽しい学生生活を送っています。

充実した環境の中で学ぶことに感謝しながら、自分の可能性を広げていきたいです。



西南政法大学サマープログラム

現在と未来を強力にサポート

法学部の勉学支援

広島大学法学部では「法学会」と「後援会」という組織を作って、皆さんの学生生活の現在と未来を、様々な側面からサポートしています。

「法学会」は、『広島法学』（写真右）を刊行し、広島大学法学部の教育・研究の成果や水準を、国内外に示しています。2004年度より新設の「法科大学院」のスタッフや学生も加わり、『広島法学』には「ロースクール」情報も満載しています。

「後援会」は、皆さんの学生生活に必要な不可欠であるものの、大学予算ではまかなえない部分を、金銭的にバックアップする活動をしています。例えば、留学経費の補助、司法試験、司法書士試験、公務員試験などの各種資格試験のための勉強会の応援、民間企業への就職を考えている人向けの対策講座や講演会などを行う際の補助金の支出、広島大学法学部を会場として開催される全国学会や研究会への助成金支出、卒業祝賀会への補助などの活動をしています。

また「法学会」と「後援会」は共催で、国際的に著名な研究者や専門家を招く学術講演会を開催したり、卒業論文の代わりとなる懸賞論文を募集、表彰したりするなど、皆さんの勉学意欲と将来への展望を刺激しつづけています。



懸賞論文表彰式にて

法学部の就職支援

法学部では、学内のグローバルキャリアデザインセンターや学外との就職関連業者との連携を図りながら、法学部独自の支援も行い、1年生から卒業年次に至るまでの、トータルな就職活動支援システムをもっています。

近年の厳しい就職状況により、各学生の就職活動の開始が早まる傾向にある中で、法学部教職員が一丸となってサポートをしています。

まず、1年生の段階で、「働く」ということについての明確な意識をもってもらうために、入学直後に行う新入生ガイダンスの中で、「キャリアガイダンス」の時間を設けています。入学したばかりの頃は、まだ就職のことなど考えたくない、という気持ちがあるかもしれませんが、「1年の計は元旦にあり」というように、「大学生活の計は1年次にあり」といっていいほど、将来の方向性を決める上で重要な時期です。ここで、しっかりした就職に対する目的意識をもって、日頃の勉強を進めてもらうことになります。

2,3年生以上になると、ゼミ連や就職委員会などが行う「民間企業内定者報告会」や各種キャリア支援講座が催され、学生達の自主的なそれらの活動を支援しています。

また、実践力に加えて重要なのが、本質的な実力の養成です。法学部では、ものごとを論理的に考え、人に伝えることができる能力のかん養を重視していますが、1年次から始まる教養ゼミ、2年次の基礎演習（昼間コース）、3年次以上の専門演習と、切れ目のない少人数による演習システムを通じて、プレゼンテーションの仕方等も含む、就職活動に必要なとされる本質的な実力の養成が行われています。

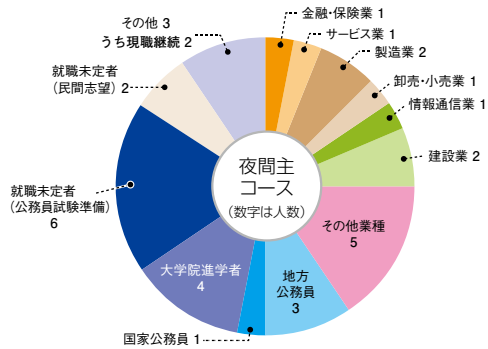
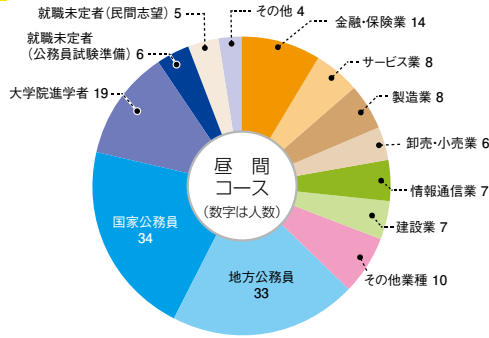


各界で活躍する先輩たち

卒業生の進路

広島大学法学部では、卒業後に地方公務員や国家公務員となって官公庁で働く人の割合が、他学部比べて大きいのが特徴です。もちろん民間企業でも多くの卒業生が、さまざまな業界の法律の知識を活かす部署で、生き生きと働いています。その他、大学院に進学して、裁判官・検察官・弁護士・司法書士・公認会計士・税理士などといった法律関係の専門職に就くため、資格試験にチャレンジする人もいます。

令和4年度卒業生の就職状況



卒業生紹介



司法書士となり、さらに社会貢献事業の法人を創業

橋口 貴志 (一社) 人生安心サポートセンターきらり 理事長
司法書士法人ありがとう 所長・平成7年度卒)*

人生一度限り。チャレンジします！
現在49歳の卒業生です。28歳のときに司法書士事務所を創業し、38歳のときに一般社団法人人生安心サポートセンターきらり(以下、「きらり」という)を創業しました。
最初は、司法書士として、後見人業務をしていましたが、家族がいない方には後見人だけではなく、入院時の保証人、葬儀、遺言など、総合的サービス提供が必要だったので、きらりを設立しました。事務局の場所は、原爆ドーム向かい側の広島商工会議所ビル8階です。
きらりは、お客様から遺言で遺産を寄付いただくことも多いので、その寄付金を原資に、返済不要の奨学金を経済的に困難な学生へ給付するなど、積極的に社会貢献事業に取り組んでいます。近年のうちに、子ども食堂の運営も開始する予定です。多くの人の人生を守りながら、かつ大胆にチャレンジすることは、非常に難しいことです。しかし、この私の思いを、広福会(広島大学法学部、経済学部などの卒業生の同窓会)、広島大学千田塾(広島大学全学部の卒業生の異業種交流会)の先輩たちを始めとして広島大学卒業の多くの先輩たちが聞いてくださり、多くの協力やアドバイスをいただけたので、きらりは大きく発展しました。現在は、広島大学卒業の先輩数名に、きらりの役員として就任いただき、きらりの事務局では、広島大学卒業生と在学生が、正職員、アルバイト、インターンとして数多く活躍しています。広島大学の縁なくして、きらりの発展はありませんでした。広島大学に入学したら、ぜひ、きらりへ見学に来てください。それから、この素晴らしい多くの先輩たちがいる広島大学法学部でしっかり学び、社会に羽ばたいてください！



チャレンジする人を応援することで、よりよい社会を築く仕事がしたい！

山本 健太(広島県 健康福祉局医務課 看護グループ 平成23年度卒)**

学生時代、私は社会学ゼミに所属し、「社会の流動化」について学んでいました。ヒト・モノ・カネがボーダレスに行き交う現代社会は、以前に比べて先行きが不透明なものとなっています。また、自由が増大した反面、自己責任がこれまで以上に問われています。そうした社会の中では、挑戦・再チャレンジする人々をサポートする「ポジティブ・ウェルフェア(参加型社会保障)」の考え方が重要です。私が公務員の道を目指したのも、大学で学んだことを踏まえて、チャレンジする人をサポートしたい、また、そうすることで社会をよりよく変えていきたいと考えたからです。現在、私は広島県庁の健康福祉局医務課に所属し、看護グループの仕事に従事しています。具体的には看護学校の運営や外国人看護師候補者の支援に関する補助金を扱ったり、准看護師の免許発行・書換・再交付などの業務に携わったり、看護職員情報サイト(「ひろしまナースネット」)H26.4開設)などの開設・運営に関わっています。事務職は「広く浅く」と勘違いされがちですが、私はジェネラリストとして幅広い知識を持ち、物事を迅速かつ効果的に判断することが、事務職に求められていると考えています。言い換えれば、新しい知識を次々と吸収しながら、これまでの知識と組み合わせ、物事を考えていく点に、この仕事の面白さがあると思います。また、スペシャリストである専門家の方々が力を十分に発揮できるようにサポートすることも事務職の仕事のやりがいのある点だと思います。公務員の仕事は、毎日何かしら法律に関わることになるので、大学で学んだ知識をベースに日々の仕事に取り組みることができています。後輩の皆さんもいろいろなことに全力でぶつかって、その中から未来につながる知識を身につけてください。



よりよく生きるための「学び」に出会う場所

永岩 慧子(愛知学院大学 准教授・平成23年度卒)*

広島大学を卒業後、大学院に進学・修了し、2017年より名古屋経済大学、2020年からは愛知学院大学で教員をしています。大学では、自らの専門である民法科目や演習を担当しています。大学教員の仕事には、自身の研究に加え、授業内外における学生指導や大学運営に関する業務、地域との交流活動など様々なものがあります。これらの仕事にどのように取り組むかは基本的に教員個人に委ねられており、多くの可能性が開かれている一方、自ら考え、行動しなければ何事もなすこともできません。自分のしたことが、直接に成果として現れるところが魅力でもあり、大変なところでもあります。大学院生の時、指導教員のもとで東北へのボランティア活動に参加しました。そこで、学生に「体験」の場を提供するという教育面での役割や、社会貢献の可能性に、大学教員という仕事への思いを一層強くしました。現在に至る道は決して平坦ではありませんでしたが、先生、家族、同じ研究者を目指す友人など、多くの人に背中を押してもらいました。大学教員として一歩を踏み出し、一つのことを突き詰めて考える思考力に加え、幅広い視野を持ち、人としての豊かさを身につけることの重要性を日々感じています。研究にも教育にもゴールはありませんが、一学生が続けることが、自分自身がよりよく生きるためであると同時に、社会の利益となっていくのだと思います。これから大学生活を送る皆さんが、多くの先生や友人との交流、そして様々な体験を通して、自己を豊かにする「学び」に出会われることを願っています。



夢を追いかけて、広島大学からマスコミの世界へ

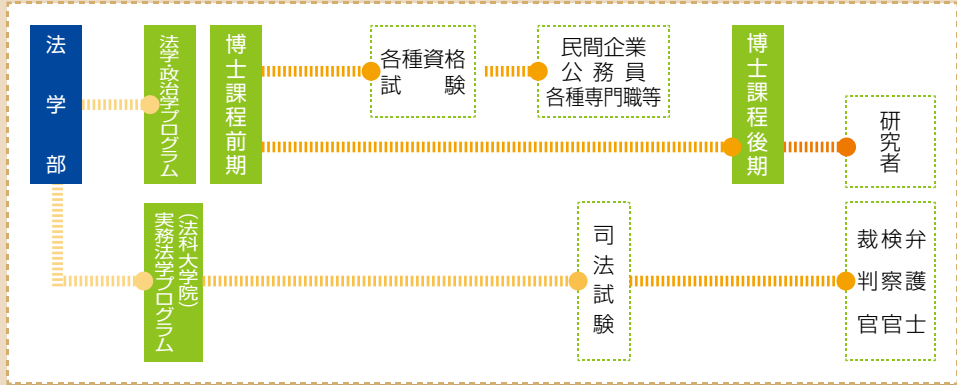
竹前 麻里子(NHK 報道局 報道番組センター 社会番組部 平成19年度卒)**

NHKのディレクターとして、朝のニュース番組「おはよう日本」の制作に携わっています。7~10分ほどの企画を担当しており、突発のニュースや気になる話題を取材・ロケ・編集して放送しています。自分が関心を持って取材をしたり、演出に工夫を凝らした番組をたくさんの人に見てもらえることが、この仕事の魅力です。私がマスコミの仕事を目指すようになったのは、小学生時代に読んだマンガ「はだしのゲン」がきっかけでした。原爆をテーマにしたこの作品を通して、社会情勢に強い関心を持つようになり、ニュースやドキュメンタリーを見るのが日課となりました(余談ですが、長野県から広島大学へ進学したのも、「はだしのゲン」の影響があったからです)。次第に「いつかは作り手として関わりたい」と考えるようになり、高校時代は放送系の部活に所属してドキュメンタリーを作ったり、大学時代は広島のTV局でニュース制作補助のアルバイトをするなどしていました。ディレクターになって数年は、自分よりもずっと年上のスタッフとの接し方に悩むこともありましたが、毎日たくさんの番組を見て基礎的な技術を学ぶとともに、コミュニケーション技術を磨くことで、悩みは少しずつ解決しています。現在、ディレクターの仕事をするうえで役立っているのは、法学部で学んだ法律や政治の知識や、物事に対するアプローチの仕方です。特にひとつの事象について様々な意見を調べて発表するゼミの勉強は、取材の基礎知識を蓄えたり、仕事仲間とわかりやすく情報を伝達する訓練になりました。今後は、労働、医療、福祉など、私たちの命や暮らしに関わる取材をライフワークとし、貧困や差別に苦しむ人たちの声を取材していきたいと考えています。

*職名等は令和5年8月当時のものです。 **職名等は平成29年7月のものです。

大学院で学ぼう

卒業後さらに大学院に進学して、法学部で学んだことを発展させ、研究を深める途が開かれています。また最近では、大学院を修了した専門知識を有する人を求める企業も増えています。大学院で学ぶことによって、研究者や高度職業専門人といった幅広い進路が皆さんに開かれるでしょう。



大学院人間社会科学研究科 法学・政治学プログラム

社会分析のプロフェッショナルになる



プログラム長 永山 博之

大学院に進学することで得られるものとは何なのでしょう。わたしは、社会を分析するプロフェッショナルになる能力を磨くことであると思います。

大学院課程の学びは学士課程の学びとは異なります。研究とは、巨人の肩の上に乗ることです。先人の研究成果を踏まえ、その肩を借りて少しでも人間の知識を前にすすめることです。このことを学問的な方法論に基づいて行い、その成果を外部に公表していくことが大学院で学ぶことの意味なのです。

人間社会科学研究科法学・政治学プログラムには、公法、民事法、刑事法、政治学、社会学の、広範な領域をカバーする研究者が在籍し、社会科学研究の最先端の研究成果をみなさんに伝えることができます。みなさんが広島大学で社会の構造を理解する能力を獲得し、社会科学のプロとなるための第一歩を踏み出すことを心から希望しています。

大学院人間社会科学研究科 実務法学プログラム(法科大学院)

「5年一貫型特別選抜」による入学者選抜が始まります

法科大学院とは、法曹という専門職を養成するための大学院です。本法科大学院では、今までに200名を超える修了生が法曹実務家(裁判官・検察官・弁護士)となり、中国地方を中心に全国で活躍しています。法曹人口は、今や5万人近くに達していますが、企業・組織内弁護士として活躍する法曹がこの15年で10倍に増加して3000名に達するなど、法曹が活躍する領域は拡大しています。

法曹資格を取得するためには、司法試験に合格しなければなりません。その司法試験の受験資格を得るための要件が、法科大学院の修了です(このほかに、司法試験予備試験に合格することにより司法試験の受験資格を得る方法もあります)。

広島大学は、法学部が移転した東千田キャンパスを「法曹養成の拠点」として整備し、法学部に法学部と法科大学院が連携して体系的な教育課程を提供する連携法曹基礎課程(法曹コース)を設けました。これにより、法学部法曹コースを3年で早期卒業して法科大学院の既修者コース(2年修了)に入学し、最短5年で司法試験合格を目指すことが可能になりました。

そして、本法科大学院は、令和5年度から、法学部法曹コースからの進学に際して、法曹コースの成績によって入学者を選抜する「5年一貫型特別選抜」を開始します。

本法科大学院では、司法試験の合格率向上のために多様な支援策を導入し、弁護士ゼミなどの学習サポート体制や各種奨学金制度を設けています。是非、本法科大学院への進学を、進路の一つとしてご検討ください。



プログラム長 周田 憲二

こんなふうに勉強しています!!

院生紹介



■ 倉本 敬司 (法学・政治学プログラム 博士課程前期)

大学院では政治学、主に国際政治学を専攻しています。研究のテーマは国政政治における評判の重要性と中東における権威主義体制の外交です。みなさんは他人の性格をどのように判断しているでしょうか。たとえば、約束の時間よりも必ず5分前に来る人は時間に性格な人と推測するかもしれません。反対に、約束の時間に遅れてくる人は時間にルーズな人と判断するでしょう。このように日常的に評判は相手の行動を予測するために用いられているわけですが、国家同士の関係ではどうなるのでしょうか。評判は何に基づいて形成されるのか、その評判は相手の行動を予測することに用いられているのか、そして国際政治の帰結にどのような影響を及ぼしているのか。これが私の主たる関心の一つです。

もう一つの関心は中東です。みなさんは中東という地域にどのような印象を持たれるでしょうか。シリア内戦をはじめとした紛争の絶えない地域、2022年ワールドカップが開催されたカタールのように石油王がいるところだと思われるかもしれません。つまり、私たちが暮らしている民主主義的な社会とは異なる特殊な地域であるという一般的考えられていると聞いて、先ほど説明した評判の研究はアメリカやロシアといった大国に主にに関心が向けられてきたので、中東のような特殊だと考えられている地域で評判について考えてみると興味深い結果が得られるのではないかと思います。中東の権威主義体制を研究対象にしています。ということを実験している一方で、授業ではより広く政治学全体を網羅的に学習してきました。日本外交史、日本の国内政治、日本近代政治思想史、多文化主義、アメリカの政治と宗教・・・といった例が挙げられます。政治学は裾野が非常に広いので、さまざまな関心に応えられる分野であると言えます。自分の周囲だけでも多様な関心を持っている人が集まっています。

広島大学の法学部に入ることを検討している方には、なんとなく公務員になろうかなと思っておられる方が多いのかもしれませんが、もちろん将来のキャリア形成は人生を歩む上で最も重大な事柄の一つではありません。しかし、広島大学は総合大学です。学ぼうと思えば、思いもよらない出会いが自分の知的好奇心を掻き立ててくれることもあります。セレンディピティとも言うべき偶然性に賭けられるのが、総合大学の魅力であると、私は思います。私自身にしても入学当初は大学院に進学してしまおうとは思っていませんでしたから。

■ 王子 寧 (法学・政治学プログラム 博士課程後期)

広島大学大学院法学・政治学プログラムの博士課程後期に在籍する中国出身の留学生です。私の専攻は環境刑法で、環境刑法の保護法益、累積犯、そして関連行政法規との関係等を研究しています。吉中名人先生の下で学び、今年で広島大学に来て4年目となります。ここで博士課程前期を終え、現在は博士課程後期の2年目です。

広島大学での生活は非常に充実しています。私の研究は指導教員である吉中名人先生、支援室、そして大学院の先輩や同期たちからとても助けられています。特に、2023年4月から法学部の東千田移転により、生活や学業がさらに便利になりました。

広島大学には、大学院生のための経済支援があります。そのため、私は経済的な問題を心配せずに学業に集中でき、研究や就職に大いに助けとなると確信しています。さらに、博士課程後期の学生は、TAや RAといった職に応募することができます。

博士課程後期は、特別研究を主に行います。私たちは各自、研究の進展をレポートで報告し、ディスカッションを行うことで、互いに助け合い、学び合っています。法学や政治学のさまざまな領域には、相互に参照し、学び合うことができる部分が多くあります。例えば、私の主要研究領域である環境刑法では、累積犯の概念を研究する中で共同犯罪に関する問題が多く取り扱われます。このような視点は、統一的正犯問題を研究する仲間から多くを学ぶことができます。また、環境犯罪の処罰の正当性問題においては、因果関係の科学的証明という問題がしばしば浮かび上がります。この問題は、科学的証拠の研究を専門とする仲間にとって、参考になるかもしれません。

さらに、指導教員は研究指導だけでなく、日本刑法学会や瀬戸内刑法研究会などの学術交流活動に参加する機会も提供してくれます。こうした活動から多くを学ぶことができ、他の大学の研究者や学生と出会うことで視野が広がります。特に、中国、イタリア、ニュージーランド、ドイツからの訪問研究者との交流は、研究を深め、視野を広げるための貴重な機会となっています。

将来は、多くの先輩たちと同様に大学で研究に従事することを希望しています。

広島大学大学院は、多くの支援と充実した研究環境があり、素晴らしい教員と共に、皆さんの夢を実現するための最適な場所となるでしょう。私たちと一緒に、あなたの学問的な旅路を歩みましょう。



大学院紹介 院生紹介

Hiroshima Univ.

法学部

■ 柚木 紗弥 (実務法学プログラム (法科大学院))



私は高校一年生の頃、刑事裁判を傍聴したことをきっかけに弁護士という職業に憧れを抱くようになりました。そのころの私は法律自体に興味はあったものの、勉強に自信がなかったこともあり、法曹になりたいと口に出すのも少し恥ずかしいくらいでした。そんな時、広島大学に法曹養成プログラムが新設されることを知り、時間もお金も節約できる、法曹を目指すことを後押ししてくれるような制度がある以上、挑戦してみるしかないと思い、広島大学に進学し弁護士を目指すことを決意しました。

広島大学に入学して、法曹養成プログラムを選択した後、4年間という長い大学生活を司法試験合格に向かって頑張り続けるのは途方もない道のりだと思い、大学生活中で一つ目標を決めようと考え「早期卒業すること」を目標に設定しました。もちろん法律は全くの初学者で、知識ゼロからのスタートでしたが、とにかく授業についていくことを最優先に、予習と復習を毎日コツコツと続けました。

法曹養成プログラムでは他のプログラムとは異なり、法科大学院の先生方との授業もあります。普段の授業とは一味違う緊張感もありましたが、それ以上に同じ目標に向かって同じ空間で勉強する機会があったのは、私にとって大きなモチベーションになり、「広大の法科大学院にはこんな先生がいるんだ」ということを前もって知ることができ、進学に対する不安も軽減しました。

そのおかげもあり、無事に大学を早期卒業することができ、広島大学法科大学院に入学しました。大学院の授業では法律を知っているだけでなく、自分自身でそれを使いこなす力が要求されます。ただ知っているだけ、覚えているだけでは太刀打ちできない問題もあり、苦労する時もありますが、自分なりに考えること、それを友人と共有し、異なる考え方を提供してもらうことで少しずつ自分なりの答えが見えてくる過程に面白さを感じています。

高校生の皆さんの中には「法律は暗記ばかり」、そんなイメージを持っている方もいらっしゃると思います。しかし法律は想像以上に奥深く、自分の頭で理解し考え、発展させていくことが不可欠な学問です。そしてそれは一人で机に向かうだけではなし得ない、法律の専門家である先生方はもちろん、様々な目標をもつ同級生、先輩方、後輩たちと共に勉強することで始めて得ることができるものだと思います。

広島大学法学部、法科大学院では、深く法律を学び、自分の夢に向かって全力で頑張ることができる環境が十分整っています。ぜひ広島大学法学部、法科大学院と一緒に学びましょう。

法学部の歴史と今

法学部の沿革

- 昭和24年(1949) 広島大学創設と共に法学部の前身たる政経学部(政経学科)設置
- 昭和25年(1950) 政経学部に第二部政経学科を設置
- 昭和32年(1957) 政経学部は広島市江波町から広島市東千田町に移転
- 昭和34年(1959) 政経学部に政治経済学専攻科を設置
- 昭和40年(1965) 政経学部政経学科・第二部政経学科を政経学部法律政治学科・経済学科・同第二部に改組
- 昭和47年(1972) 大学院法学研究科(修士課程)を設置
政治経済学専攻科を廃止
- 昭和52年(1977) 政経学部を分離改組し、法学部・経済学部及び同第二部を設置(政経学部の廃止は昭和63年)
- 昭和61年(1986) 大学院法学研究科(修士課程)・大学院経済学研究科(修士課程)等を改組し、
大学院社会科学研究科(博士課程)を設置
- 平成7年(1995) 東広島市に移転
法学部・同第二部を改組し、昼間コース・夜間主コース(東千田地区)を設置
- 平成16年(2004) 大学院社会科学研究科の改組・部局化
- 令和2年(2020) 大学院社会科学研究科法政システム専攻、社会経済システム専攻を大学院人間社会科学研究科
法学・政治学プログラム、経済学プログラムに改組
- 令和5年(2023) 「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」とする東千田キャンパス整備計画により
法学部昼間コース、法学・政治学プログラムを広島市に移転

法学部教員(五十音順)

学部長 永山博之

法 学	政治学・社会学
教授 折橋 洋介(行政法)	教授 浅利 宙(法社会学)
手塚 貴大(行政法・租税法)	江頭 大藏(社会学)
堀田 親臣(民法)	永山 博之(国際政治学)
松原 正至(商法)	吉田 修(アジア政治)
宮永 文雄(民事訴訟法)	准教授 荒木 隆人(政治学)
Mousourakis George(法哲学・法制史)	長久明日香(国際政治経済学)
吉中 信人(刑事訴訟法・少年法)	湯川 勇人(日本外交史)
准教授 稲谷 信行(労働法)	助 教 伊藤 隆太(政治学・国際関係論)
井上 嘉仁(憲法)	重村 壮平(政治過程論)
岡田 昌浩(商法・知的財産法)	柴田 佳祐(外交史)
金ミンジュ(民法)	
高田 恭子(民法)	
野間小百合(国際私法)	
山口 幹雄(民法)	
講 師 葛 虹(中国法)	
助 教 辛嶋 了憲(憲法)	
SUN LU(刑法・東洋法制史)	

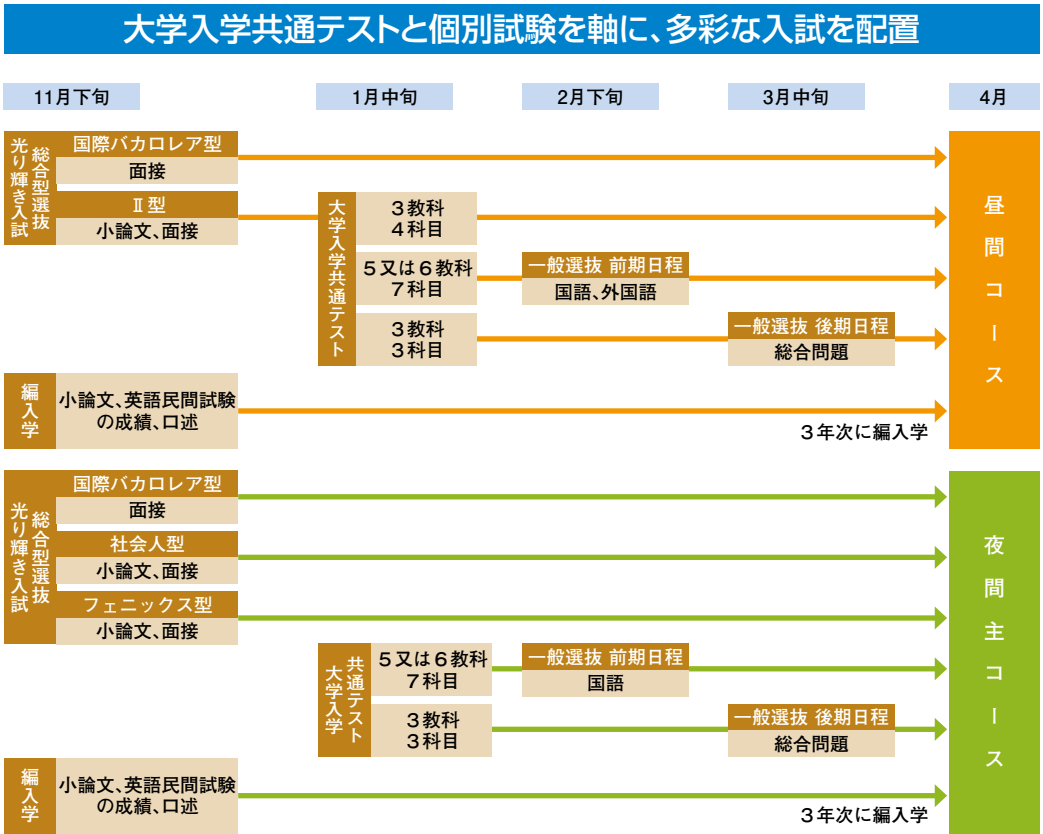
(令和5年6月現在)

法学部への入口は多彩

07

各種入試

examinations



2つのコース

高校から大学へ、フルタイムの学生(学業専念)をめざすあなた

大学入学共通テストから、前期・後期の一般選抜をトライ。昼間コースへ。

働きながら学ぶ、生涯学習をめざすあなた

多彩な光り輝き入試総合型選抜を用意しました。大学入学共通テストから前期・後期の一般選抜へ進む道とは別に、あなたに合った入試にチャレンジしましょう。入学後は、夜間主コースに進むことができます。夜間主コースでは、主に18時から21時10分の夜間に学習するほか、制限単位数以内であれば東広島や東千田キャンパスの昼間時間帯の授業を履修することもできます。また、昼間コースの学生と一緒に、同一時間に昼間コース夜間主コースの両方で開講される講義を受けることもできます。

光り輝き入試/総合型選抜・II型 昼間コース

志望理由書などの書類を参考に、小論文と面接により第一次合格者を選抜し、大学入学共通テストを受験して、一定の基準点を超えた方を最終合格者とします。

光り輝き入試/総合型選抜・国際バカロレア型 昼間コース 夜間主コース

国際バカロレア資格取得者を対象とした選抜で、志望理由書などの書類を参考にし、面接のみで合否を判定します。

光り輝き入試/総合型選抜・社会人型 夜間主コース

社会人や主婦、充電中のあなたに。22歳以上の方が出願できます。小論文と面接のみで合否を判定します。(大学を卒業または卒業見込みなどの方は、編入学試験を受けることもできます。)

光り輝き入試/総合型選抜・フェニックス型 夜間主コース

60歳以上の生涯学習者向けの入試を設けました。小論文と面接のみで合否を判定します。

編入学 (3年次) 昼間コース 夜間主コース

大学・短期大学・高等専門学校などを卒業した方(卒業見込みを含みます)、あるいは大学に2年以上在学し所定の単位を修得(見込みを含みます)した方が出願できます。3年生に編入し、2年間の在学で卒業することができます。

出願資格など、詳細は「募集要項」で、ご確認ください。ご不明な点は、パンフレット裏表紙記載の窓口まで、お問い合わせください。

広島大学法学部

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/law>

■昼間・夜間主コース(東千田キャンパス)

〒730-0053 広島市中区東千田町一丁目1-89 TEL 082-542-7057, 6998

FAX 082-542-6964

E-mail: senda-gaku-sien@office.hiroshima-u.ac.jp

法学部は東広島市から広島市へ移転しました

令和5年4月授業開始

広島大学は、「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」として東千田キャンパス(広島市)の整備を進めています。法学部昼間コース、大学院人間社会科学研究所法学・政治学プログラムを東広島キャンパスから東千田キャンパスに移転し、令和5年4月より授業を開講しました。

※整備の詳細については、以下のURLをご参照ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/65524>

広大 東千田整備

検索



■東千田キャンパス

- ・JR広島駅前からバスまちのわループ左回り、50号東西線アルパーク方面行で「日赤病院前」下車(所要時間約20分)
- ・JR広島駅前から市内電車紙屋町経由「広島港」行で「日赤病院前」下車(所要時間約30分)
- ・JR横川駅前から市内電車「広島港」行で「日赤病院前」下車(所要時間約25分)

